

あの名曲に 秘められた秘話

音楽が2倍楽しくなる話

子供の頃に夢中になったあの名曲、青春時代に聴いたこの名曲……。誰の中にも、その時代の記憶と密接に結びついた音楽が存在します。音楽評論家であり、日本レコード大賞常任実行委員も務める講師が、時代を彩った名曲の誕生秘話や知られざるエピソード、隠されたメッセージなどをひもとき、名曲を2倍味わう方法を教えます。音楽がより楽しく味わい深くなるのはもちろん、ついつい人に話したくなる驚きのエピソードが満載の講座です。



富澤 一誠（とみさわ いっせい）

音楽評論家。1971年、東京大学を中退し音楽評論活動に専念。著書に「フォーク名曲事典300曲」「あの素晴らしい曲をもう一度」など全60冊。

〈Age Free Music〉（FM愛知）、〈青春のバイブル〉（USEN）などのパーソナリティとしても活躍中。日本レコード大賞常任実行委員。〈Age Free Music～大人の音楽〉キャンペーンの総合プロデューサー。

平成26年4月～6月カリキュラム

- 講師：音楽評論家 富澤一誠
- 開講日：第4木曜日 13:30～15:00
※4/24、5/22、6/26
- 受講料：3カ月（3回）分
9,000円（税別）

● 第1回（4/24）

〈流行歌の関東、反抗歌の関西〉

1960年代初頭、アメリカで生まれたフォーク・ソングは最先端の音楽だった。それに触発されて生まれた和製フォーク・ソングはマイク真木の「バラが咲いた」、高石ともやの「受験生ブルース」を生む。

● 第2回（5/22）

〈「私たちの歌」から「私の歌」へ〉

70年安保を境にして、外に向いていた目（意識）が内に向かい始めた。その結果、岡林信康の“私たちの歌”から吉田拓郎の“私の歌”へ流れは変わったのだ。つまり集団から個人への移行である。

● 第3回（6/26）

〈「四畳半フォーク」から「ワンルーム・ソング」へ〉

75年を境にフォークは「ニューミュージック」へと姿をかえた。それまでの主流は「神田川」のような叙情派フォークだったが、シャれたポップセンスにあふれた荒井由実が時代の華となったのだ。

詳細は右記フリーダイヤルまでお問い合わせください。

- ※内容・日程は変更になる場合がございますご了承ください。
- ※講座により募集締切日が異なりますので、お問い合わせください。
- ※お申し込みの人数によっては、開講中止となる場合もございます。予めご了承ください。



名古屋・栄 中日文化センター

Culture & Communication 中日新聞

フリーダイヤル

0120-53-8164 10:00～19:00
日曜日は17:00まで

〒460-0008 名古屋市中区栄4-1-1 中日ビル4F

中日文化センターへ初めてご入会される方は、別途入会金3,500円（税別）が必要です。